

『幼稚園の現場から』

35・働き方改革ってムズカシイ

原町幼稚園園長 鶴谷主一（静岡県沼津市）

やりはじめました

前号で、北海道で活躍する井内先生のレポートを紹介しました。その頃は順調に改革が進んでいるかに見えたのですが・・・師走を前にしたまさにいま！（11月末）来週に迫った「音楽会」と月末の定型業務、それに学期末の業務が重なり残業の日々が続いています。（T-T）

原町幼稚園では、2017年度から幼稚園型認定こども園に移行し、それまでの教育時間4時間に加えて保育ニーズのあるお子さんを預かるため11時間園を開けておくことが義務となりました。その時間をカバーするためと、より質の高い教育を行うために、教職員の数を増やすことが可能になりました。働き方改革の本丸は、人を増やすこと！そして業務を減らすこと！の二つだと言われていますので、具体的にそこに着手したのですが・・・そう簡単にはいかないようです。

作戦1▶人を増やす（時間は週の勤務時間）

2018年度原町幼稚園の運営体制					
	常勤教員/40h	非常勤教員	常勤職員/40h	非常勤職員	外部講師・委託
園長	1人				
教務主任	1人				
副主任	1人				
メンター	1人				
年長児2クラス	担任2人	1名/12h			
年中児2クラス	担任2人	1名/20h			
年少児2クラス	担任2人	1名/40h			
満3歳1クラス	担任1人	2名/30h			
預かり保育		1名/23h			
送迎・事務			園バス1人	事務1人/20h	園バス委託2
講師					体操1、音楽1
合計	11人	6人	1人	1人	4人

7クラス120人定員の園に19人の教職員

幼稚園時代から比べると園児数は180人から120人に減り、逆に職員は常勤2人、非常勤を3人増やすことができました。

Check!▶人を増やすことでかかる時間もある

新しい人が増えれば、その職員の教育が課題になってくるのがわかりました。業務への慣れの時間はもちろん、全員が一丸となって教育目標を実現していくためには、園独自の教育方法や、子どもとの接し方、目標の共通理解や行事の持ち方など様々な細かいことを覚えてもらう。教える人が必要なのがわかりました。そのため、最初はかえって時間がとられることになります。

▶教職員が少しでも長く務めてくれることがポイントになってきます。

作戦2▶ICT・機器の導入で業務を減らす

- 時間がかかる業務の一つ「手書きの文書作成」を解消すべく、デジタルへの移行を実施しました。全員が自分専用のipodtouchを持ち、日々の日誌&職員間連絡ツール【nanoty】を導入して、紙ベースの保育日誌は廃止しました。
- 【nanoty】には写真やファイルを添付できるので、写真にキャプションを付けて簡単な画面上のドキュメンテーション的に記録することが可能です。また、名前はひらがなで入れるように統一し、名前で特定の子どもの記録を検索することも可能です。
- 年間40~60号発行していたクラスのお便りは廃止し、【キッズリー】という無料のアプリを導入して、クラス投稿という機能を使って、活動の写真とコメントをUPし、登録した保護者に見てもらえます。
- 写真はipodtouchで撮ったものをそのまま使います。写真が多くなるとデバイスの容量を超えてしまうので、無料のクラウド【Googleフォト】に各々が保管するようにしています。
- 写真をプリントするときは、GoogleフォトからPCにダウンロードしてプリンターから紙に印刷します。
- 以上の環境を整えるのに、園内のwifi環境、インターネットのルーターにセキュリティーBOXを設置するなどの対策を行いました。
- オマケですが、ロボット掃除機も活躍してもらっています。



通称マキタくん。広いホールや廊下、テラスなどはぐんぐん掃除してくれて人がやるよりピカピカにホコリを吸い取ってくれます。早朝や夜に活躍中！30分程度の掃除時間短縮に貢献していると感じます。

保育日誌の入力風景。手書きからアプリへの入力へ…
保護者へのクラス投稿もipodから。慣れるまでは違和感ありましたが、園で入力できなかったときは自宅でもできるというメリットもあります。10~20分程度。音声入力すればもっと早くなるのかな？



結果▶人を増やし、ICTを導入してどう変わったか？

前号で分類された仕事の内容ごとに、音楽会を一週間後に控えた幼稚園の仕事をピックアップしながら検証してみましょう。（音楽会についてはマガジン30号参照）

◆おさらいのために保育者の仕事の分類を確認しておきます。

A 専門性の必要な業務

- ・保育記録などの園児理解
- ・指導計画等の作成
- ・児童票や指導要録等の作成
- ・支援が必要な園児家庭への対応
- ・職員間の業務・行事の打合せ
- ・保育のためのスキルアップ（練習）

C 保育者の業務だが負担軽減が可能業務

- ・通園バスの添乗
- ・提出物の管理等の処理
- ・出席簿作成や登降園の管理
- ・保育で使用する教材の作成・準備
- ・保育室の装飾や環境整備
- ・保育者ボランティアや手伝いに関する業務

B 軽減が難しい業務

- ・提出物の管理等の処理（ほぼ毎日）
- ・園行事の準備や運営（多くの時間を使う）
- ・出席簿作成や登降園の管理（毎日）
- ・保護者向け文書や書類の作成（PC使用）
- ・保護者会活動に関する業務（保護者対応）

D 必ずしも保育者が担う必要の無い業務

- ・園で集金する費用の管理
- ・園内の清掃・洗濯等
- ・写真販売に関する業務
- ・保護者ボランティアや手伝いに関する業務

検証▶A〈専門性が必要な業務〉はどう変わったか？

目標▶働き方改革においてAは充実させるべき業務

A-1：保育時間

- ・課題活動（今の時期は音楽会の練習等）にかかる時間は、一日の教育時間約4時間のうち20分～40分程度。その他の時間は、生活やあそび、その他の課題の時間に充てられます。（課題と言っても一斉に行う授業のようなものではありません）
- ・この業務は改革前から時間は固定しているのだが、充実度は保育の質をはからなければよくわからない。個人の力量でも大きく変わるので善し悪しは保育準備にかかってくると考えられます。

A-2：保育準備

- ・日々の保育を支え、充実させるためには個々のスキルアップが必須です。
- ・日々の保育に使う教材の準備に、行事（音楽会）のための準備が加わり、かなり時間が必要になる。
- ・具体的には音楽会で披露する曲の伴奏や歌、指揮法などの練習。
- ・曲の構成確認や指揮と伴奏者の合わせ、職員が披露する歌の練習。
- ・音楽会当日のことを含めた気になる子どもへの対応のための相互理解と打合せ。
- ▶この時間が全体の仕事を終わった後に回されがちなので、この時間を確保することがポイントだと思う。しかし行事前はこの時間のボリュームが増加してしまう。

A-3 : 保育記録

- 日誌を手書きからクラウドを活用したデジタルに変えたことで、以前は溜めていた日誌を毎日コンスタントに書けるようになった。
 - クラウドなので時間と場所に縛られずに記録ができる。
 - 園長が全てに目を通すようになった。(今まではできていなかった)
 - 日誌と同時に連絡事項も共有されるようになった。
 - 紙ベースより短時間で多くの情報を入力することができる。
- ▶この分野は改革が効果を発揮していると(今の段階では)思える。
- ▶紙のようにサッとページをめくって見返す手軽さは無い。年度末の指導要録を書く段階では検索機能を活用することもあるだろう。



iphoneで記録した音楽会リハーサルの動画を【appleTV】でテレビに送り、モニターで見ながら反省と対策を検討している。データを個人のiphoneやipodに送れるので、より細かいところまで把握でき保育の質の向上には役立つが、できることが増える分、やることも増えていくので、保育の充実には一役買っているが、時短には貢献しているとは言えないジレンマを感じる。

検証▶ B 〈軽減が難しい業務〉はどう変わったか？

- A-3と関連するが、ICTを導入しての軽減と、人を増やしたことにより仕事量は軽減されている。
- 音楽会のプログラム製作や看板製作など手作業が多いものを分担できる。
- 保護者への連絡は、アプリの導入で多少軽減された。



音楽会のプログラム製作。子どもが作品として手を入れたものを仕上げていく。パーツ作りなど一律のものは作業を分担できるが・・・作業の絶対量が多い！デザイン的に減らすことも考えねばならない。



音楽会の看板作り。担任以外で進めていく。細かい手作業が要求される。
納得のいくものを作るのにほぼ1日かかった。



完成した看板。西村敏雄さんの絵本「どうぶつサーカスはじまるよ」をモチーフにした手作り感満載の立て看板。ここまでこだわる必要もあるのかという意見もあろうかと思うが、毎年看板の前で写真を撮る親子が順番待ちで並んでいる光景を思うと手を抜けない……。

検証▶ C 〈保育者の業務だが負担軽減が可能な業務〉はどう変わったか？

- バス添乗は今まで通りローテーションで行っているが、人が増えた分必要なときに交代できるのが良い。時短には繋がらないが、急な業務（例えば保護者との面談）などにも対応できるようになった。
- 職員の欠勤にも大きな負担なく対応でき、代休も取りやすくなった。
- 出席簿管理は従来通りペーパーで行っているが人数が少ないのでそれほど負担になる業務ではない。
- 教材の準備等が計画的にアシストできると良いのだが、準備してもらうものを指示・依頼することに慣れていない状況が目立つ。
- ▶ 多少軽減できたかな、という程度。この分野をもっと軽減させることでAの業務に注力できるようになるだろう。

検証▶ D 〈必ずしも保育者が担う必要の無い業務〉はどう変わったか？

- Dについてはもともと事務職員が担当しているので変わりなし。
- 掃除については、専門の職員の導入も考えても良いのかもしれない。

▶現段階での考察（まだまだ足りない）

1学期は、増員とICT導入の恩恵を感じていた皆だったが、業務の年間計画を見直した訳ではなく、2学期以降は例年通りの行事予定が目白押しで、日々の活動に行事活動という活動の積み上げが実感され、加えて（人がいるからこそ実施できる）次年度入園児の「**ブレ保育**」や「**一時預かり**」などの**新しい事業の展開**によって、アシスト保育者が忙しくなってしまう、フォローにまわりづらい状況になってしまった。

ICTについては、一年経っていないのでまだまだ試行錯誤の段階だが、改善は期待できる。反面、iphoneなどのデバイスが新しいOSに切り替わっていき、今まで使っていたPCとの互換性がなくなり、写真をプリントするソフトなど「**今までできていた業務ができなくなって滞る**」という状況にも直面し、**ハード面での資金投入は避けられない**と感じる。

働き方改革の重要なところはA・Bの業務に専門職が注力できる環境を作ることだから、個々で細部をいじるより、構造的に考えていかななくてはならない。結局経営・運営側による改革が進まねば全体的に大きな成果は得られないと言うことを感じる。まず、自分の仕事内容を見直してその計画を練る時間をひねり出さねば！

〈参考〉原町幼稚園で導入しているICTソフト・アプリ

有料▷日誌・職員間連絡ツール〔nanoty〕 <http://www.nanotybp.jp/>

無料▷保護者への情報提供ツール〔キッズリー〕 <https://kidsly.jp/index.html>

有料▷保護者連絡&園児管理ツール〔バスキャッチ〕 <https://www.buscatch.com/>



仕事は充実しているけど、やることはいっぱい・・・



原町幼稚園 園長 鶴谷主一 (58)
1960年生まれ 宮崎のだ田舎でやんちゃに育つ
高校は、家を飛び出してみたいと希望して新潟の敬和学園高等学校に進学し寮生活。
受験勉強は皆無で、卒業後実家の幼稚園を手伝ううちに幼児教育の面白さに開眼！
1979年 都農聖愛幼稚園 (宮崎県実家にて助手勤務)
玉川大学の通信にて学習を始めるも8年の在籍期間中に単位が取れずに断念。
1984年 彰栄保育専門学校にて免許・資格取得
葛飾みどり幼稚園に教員として勤務
1989年 玉川大学の恩師 (故日名子太郎先生) のお誘いを受けて、オイスカ香港日本語幼稚園に主任として勤務。(5年契約のところ地元の事務長と運営方針をめぐり対立し2年で帰国。日名子先生との関係は良好でその後日本での交流を続ける。)
1991年 原町幼稚園 (妻の実家) に勤務
2002年 原町幼稚園園長として勤務→現在

HP : <http://www.haramachi-ki.jp/>
MAIL : office@haramachi-ki.jp
Twitter : @haramachikinder
Instagram : haramachi.k

▶記事の内容でご感想・ご意見ご質問等ありましたら気軽にご連絡ください。

「幼稚園の現場から」ラインナップ

- 第1号 エピソード (2010.06)
- 第2号 園児募集の時期 (2010.10)
- 第3号 幼保一体化第 (2010.12)
- 第4号 障害児の入園について (2011.03)
- 第5号 幼稚園の求活 (2011.06)
- 第6号 幼稚園の夏休み (2011.09)
- 第7号 怪我の対応 (2011.12)
- 第8号 どうする保護者会? (2012.03)
- 第9号 おやこんぼ (2012.06)
- 第10号 これは、いじめ? (2012.09)
- 第11号 イブニング保育 (2012.12)
- 第12号 ことばのカリキュラム (2013.03)
- 第13号 日除けの作り方 (2013.06)
- 第14号 避難訓練 (2013.09)
- 第15号 子ども子育て支援新制度を考える
- 第16号 教育実習について (2014.03)
- 第17号 自由参観 (2014.06)
- 第18号 保護者アナログゲーム大会 (2014.09)
- 第19号 こんな誕生会はいかが? (2014.12)
- 第20号 ITと幼児教育 (2015.03)
- 第21号 楽しく運動能力アップ (2015.06)
- 第22号 〔休載〕
- 第23号 大量に焼き芋を焼く (2015.12)
- 第24号 お話あそび会その1 (発表会の意味)
- 第25号 お話あそび会その2 (取り組み実践)
- 第26号 お話あそび会その3 (保護者へ伝える)
- 第27号 おもちやのかえっこ (2016.12)
- 第28号 月刊園便り「はらっば」 (2017.03)
- 第29号 石ころギャラリー (2017.06)
- 第30号 幼稚園の音楽教育 (その1・発表会)
- 第31号 幼稚園の音楽教育 (その2・こどものうた)
- 第32号 幼稚園の音楽教育 (その3・コード奏法)
- 第33号 〔休載〕
- 第34号 働き方改革・一つの指針
